

鳴門教育大学

学校教育研究紀要

No.34

- | | | |
|---|-----|--------------------------------------|
| 大学生の恋愛の発達と自己の発達との関連
—自己心理学的観点による分析と恋愛相談との関連— | 1 | 井ノ崎敦子, 葛西真記子 |
| 多重感覚環境を活用した知的障害のある生徒への学習支援
—アンガーマネジメントと主体的な関わり合いに向けて— | 9 | 藤澤 憲, 田中 淳一, 高橋 眞琴 |
| 「プロセスレコード演習」が養護教諭の自己理解と生徒理解にもたらす効果 | 17 | 久米 禎子, 石井 景子 |
| 学校運営の状況が教員の自己認知・他者認知にどのような影響を与えるか
自己評価維持モデルに着目して | 27 | 前田 洋一 |
| スマートフォンカメラ用小型マクロレンズを用いたメダカの卵の観察 | 37 | 寺島 幸生 |
| 中学校理科の探究活動として利用可能な簡易な実験教材とその活用法 | 41 | 寺島 幸生 |
| 「自律的セルフ・エスティーム」を育成するユニバーサル予防教育の開発 | 47 | 賀屋 育子, 道下 直矢, 横嶋 敬行,
内田香奈子, 山崎 勝之 |
| 小学校低学年の読みのアセスメントと指導 | 55 | 栗田のり子, 池田 誠喜 |
| 幼小接続期の思考過程における協同性に関する研究 | 65 | 倉野 晴代, 塩路 晶子 |
| ユニバーサル予防教育「自律的セルフ・エスティームの育成」プログラムの効果
—小学校5年生を対象とした教育効果の検証— | 77 | 横嶋 敬行, 影山明日香, 賀屋 育子,
内田香奈子, 山崎 勝之 |
| 教授行為の意図に関する教員志望学生の認知
—熟練教師との比較から— | 85 | 川上 綾子, 江川 克弘 |
| 数の直感的把握：発達および障害に関する資料から | 93 | 高原 光恵 |
| 小学校における知性と感性を結ぶ俳句教育プログラムの提案
—互いを認め合い支え合う学級づくりを目指して— | 99 | 皆川 直凡 |
| 市町村教育委員会に係る教職員の多忙化解消について
—徳島県内の市町村教育委員会への質問紙調査より— | 105 | 北島 孝昭, 阪根 健二 |
| 情報技術の進展に伴う情報モラル教育内容の再考
—初等教育段階における情報モラル教育実施体系の分析を通して— | 115 | 竹口 幸志 |

- 鳴門教育大学学校教育研究紀要(以下「紀要」という。)は、主として次の投稿論文を掲載する。
 - 地域連携センター(以下「センター」という。)の客員研究員研究プロジェクト(以下「研究プロジェクト」という。)の研究成果である未発表の投稿論文
 - センターの活動として行う研究等に関する未発表の投稿論文
 - その他センターが特に認めた未発表の投稿論文
 - 紀要に執筆できる者は、次のとおりとする。
 - 本学の専任教員及び附属学校園教員
 - 本学の専任教員を論文の共著者とした研究プロジェクトの研究分担者
 - その他センター所長が特に認めた者ただし、(1)(2)(3)ともに、共著の場合は本学の専任教員及び附属学校園教員を共著者とし、第一著者は本学の専任教員、附属学校園教員、研究員、客員研究員、研究補佐員、大学院生(連合大学院生を含む。)のうちいずれかとする。
 - 投稿論文の区分は、次のとおりとする。
 - 問題提起と研究成果・理論的考察を備えた、比較的まとまったものを原著論文とする。
 - 研究の経過報告、調査資料の報告などをとりまとめたものを研究報告とする。
 - 第一著者として投稿できる論文数は、1執筆者につき2編までとする。
 - 投稿論文の掲載の可否及び掲載の順序などについては、センター所長及びセンター担当教員で構成する学校教育研究紀要編集委員会において決定する。
 - 投稿論文の著作権及び公開については、次のとおりとする。
 - 紀要に掲載された論文の著作権は著作者に属する。ただし、鳴門教育大学に対して、継続的に複製権、公衆送信権を許諾することとする。
また、投稿論文が第三者の著作権その他の権利の侵害問題を生じさせた場合、一切の責務は投稿者が負うものとする。
 - 論文は原則としてウェブページで公開するものとし、掲載が認められた時点で、著者の許諾があったものとして取り扱う。なお、特別な事情によりウェブページでの公開を許諾できない場合は、理由書を学校教育研究紀要編集委員会に提出し、非公開とすることに対して許諾を得るものとする。
 - 執筆要項は、原則として次のとおりとする。
 - 原稿は、和文あるいは英文によるものとする。原則としてMS-Wordあるいは一太郎を用いる。印刷サイズはA4版の縦おきで、上下左右の余白は各々25mm、20mm、15mm、15mmとし、文と図、表、写真、文献等を含めて作成する。和文、英文ともに刷り上がりページ数は、原則として原著論文は10ページまで、研究報告は6ページまでとする。
 - 和文原稿は、常用漢字、新かなづかいで横書きとする。冒頭には、タイトル、タイトル(英文)、著者名、所属と所在地、著者名(英文)、所属と所在地(英文)、抄録(200～400字)、キーワード(重要な順に3～5語)、アブストラクト(英文、200ワード以内)、キーワード(英文)を1段組で、それ以降の本文、引用文献等は2段組(25×48行×2段組、段間は10mm程度)で記す。
本文の書体は明朝体(9pt)を標準とする。句読点は、原則として「,(コンマ)」と「。(句点)」に統一する。1桁の数字は全角、2桁以上の数字は半角、アルファベットは半角を基本とする。
 - 英文原稿は、冒頭に、タイトル、著者名、所属と所在地、アブストラクト(200ワード以内)、キーワード(重要な順に3～5語)を1段組で、それ以降の本文、引用文献は2段組(48行×2段組、段間は10mm程度)で記す。
本文の書体はTimes(9pt)を標準とする。
 - 氏名をアルファベット表記する場合の姓名の順序は、和文及び英文原稿ともに、母国の標記の順序(例:日本語の場合はYAMADA Taro)とし、姓は大文字で表記する。
 - 本文の見出しの番号の付け方は、和文原稿ではゴシック体(9pt)全角で、英文原稿ではArial(9pt)で、次のようにする。
大見出し ローマ数字で表す。中央揃えを標準とする。
中見出し アラビア数字で表す。左揃えを標準とする。
小見出し 片括弧付きアラビア数字で表す。左揃えを標準とする。
1. …
1) …
2) …
3) …
2. …
 - 図表
図(写真を含む)や表は、鮮明で内容が判別できるものを用いる。図表は必要最低数にとどめ、1枚の図表の最大サイズは刷り上がりで見開き2ページを超えないものとする。必要な場合は1段組にしてもよい。
図題は図の下に、和文原稿では図1、図2…のように、英文原稿ではFig. 1, Fig. 2…のように記す。また、表題は表の上に、和文原稿では表1、表2…のように、英文原稿ではTable 1, Table 2…のように記す。図題、表題ともに、和文原稿はゴシック体(9pt)、英文原稿ではArial(9pt)で、中央揃えとする。
写真は白黒写真を原則とし、挿入位置及び仕上りサイズを原稿用紙上につける。なお、カラー写真の掲載を希望する場合には、その印刷実費は第1著者又は研究代表者の個人(研究費)負担とする。
 - 参考文献及び引用文献
 - 本文中での文献の引用は、英字、記号、数字を半角とし、以下のとおりとする。
(例) GAGNE (1970b) は……
前田 (1969) は、……。
……と述べている (GAGNE, 1970b)。
……と述べている (前田, 1969)。
 - 文献は、投稿論文の最後に一括して、著者名のアルファベット順に表記する。記述は英字、記号、数字を半角とし、以下の形式を標準とするが、他の形式を用いてもよい。
 - 論文の場合は、著者名、発表年、表題、雑誌名(書名)、巻(号)、ページ。
(例) 鳴門太郎 (1900), 日本の学校, 日本教育, 16(1), pp.1-10.
鳴門太郎:『日本の学校』, 『日本教育』, Vol. 16, No.1, pp.1-10, 1990年.
『日本の学校』, 鳴門太郎, 『日本教育』, 第16巻第1号, 1-10頁, 1990年.
 - 単行本の場合は、監編著者名、出版年、書名、出版社、ページ。
(例) 鳴門太郎編著 (1900), 日本の学校, 日本出版, pp.1-200.
鳴門太郎編著:『日本の学校』, 日本出版, 1-200頁, 1990年.
『日本の学校』 鳴門太郎編著 (日本出版, 1990年, 全200頁)
 - 外国文献の単行本の場合は、編著者名(出版年)、書名、出版社所在地、出版社、ページ。
(例) NARUTO, Taro (1900), The Japanese School, Tokyo, Nippon Syuppan, pp.1-200.
 - 注記は必要な場合には本文の最後、文献の前に一括して記述し、本文中では該当箇所の右肩上付で、注1)、注2)のように示す。
 - 研究プロジェクトの研究成果である原著論文又は研究報告については、文献の後に付記として、当該研究プロジェクトの年度、研究題目を明示する。
- 投稿は、文書ファイルを、教務企画部社会連携課地域連携係までメール(chiiki@naruto-u.ac.jp)にて提出する。
- 校正は著者が責任を持って行い、誤植の訂正のみとし内容の加筆、修正、削除等は受け付けない。
なお、著者校正は初校のみとする。
- 別刷の費用は、個人(研究費)負担とする。

Bulletin
of
Center for Collaboration in Community
Naruto University of Education
No.34, Feb, 2020

Contents

Original Papers

- 1 INOSAKI Atsuko and KASAI Makiko
The Relationship between mature of romantic love and development of self among university students
— The analysis from self psychology theory and the relationship of romantic love consultation —
- 9 FUJISAWA Ken, TANAKA Junichi, and TAKAHASHI Makoto
Learning Support for Students with Intellectual Disabilities in Multisensory Environment:
Toward Anger Management and Relationship with Friends
- 17 KUME Teiko and ISHII Keiko
The effect of “Process Record Exercise” on Yogo teacher’s self-understanding and student-understanding
- 27 MAEDA Yoichi
The Impact of School Management on Teachers’ Self-perception and Other-perception Focus on Self-evaluation
Maintenance
- 37 TERASHIMA Yukio
Observation of Killifish Eggs with a Small Macro Lens for Smartphone Cameras
- 41 TERASHIMA Yukio
Simple Experimental Teaching Materials and Their Utilizations for Research Activities in Lower Secondary Science
- 47 KAYA Ikuko, MICHISHITA Naoya, YOKOSHIMA Takayuki, UCHIDA Kanako and YAMASAKI Katsuyuki
Development of a School-Based Universal Prevention Program to Cultivate Autonomous Self-Esteem
- 55 AWATA Noriko and IKEDA Seiki
Reading assessment and teaching methods for elementary school lower grades
- 65 KURANO Haruyo and SHIOJI Akiko
A Study on the Collaboration of the Thinking Process During the transition from Kindergarten to Elementary school
- 77 YOKOSHIMA Takayuki, KAGEYAMA Asuka, KAYA Ikuko, UCHIDA Kanako and YAMASAKI Katsuyuki
Effectiveness of a School-Based Universal Prevention Program “Development of Autonomous Self-Esteem” in 5th-
Grade Children
- 85 KAWAKAMI Ayako and EGAWA Katsuhiko
The Cognition of Preservice Teachers about the Intention of Teaching-Behavior
:Through the Comparison with the Expert Teacher
- 93 TAKAHARA Mitsue
Subitizing: A literature review on development and/or disability
- 99 MINAGAWA Naohiro
The proposal of the educational program for an elementary school, utilizing a haiku to improve an intellectuality and
sensitivity: aiming at the development of a class which a child accept each other and support each other.
- 105 KITAJIMA Takaaki and SAKANE Kenji
Measures to eliminate teachers’ overwork by municipal board of education
— Questionnaire survey for the chairpersons of education boards in Tokushima prefecture —
- 115 TAKEGUCHI Koji
Reconsideration of Information Ethics Education Content Accompanying the Advancement of Information Technology
— Analysis of Information Ethics Education in the Primary Education —